



JAC GUNMA

公益社団法人

日本山岳会

群馬支部報

第28号

2026年
7月15日2026年度
通常総会

「山岳会の新たな形を」根井支部長

日本山岳会群馬支部の2026年度通常総会が5月20日、前橋市中央公民館（前橋プラザ元気21）で開かれ、25年度事業報告・決算報告案、26年度事業計画・予算案など提出された7議案が原案通り可決承認された。委員会再編については安全研修委員会を廃止し、その機能を維持しつつ山行委員会をさらに充実させていくことなどが決まった。

総会開催にあたって冒頭、根井康雄支部長があいさつ。支部長就任からの5年間を振り返り、「安全で楽しい山登りを基本に据えて、骨太の山岳会を目指して皆さんといろいろなことにチャレンジしてきた」と総括。さらに近年の社会状況などに触れて、「山の世界も大衆化が進み、多くの山岳会の組織が弱体化してきて、互いの個のつながりがなく、SNSなどの情報だけで気軽に登山やクライミングの世界に入ってくる人たちが増えてきた。安直に山に入る傾向が強くなり、遭難事故が増えてマナーやルールを知らない、守れない登山者が大量に出没している。そうしたなかで、群馬支部としてどのような心構えが必要か、会員の皆さんと共に考えながら山への思い、技術を共有した登山者の集まりとして山岳会の新たな形を目指していきたい」と呼びかけた。

25年度事業報告では、公益事業として赤城山での自然観察会、健康登山事業（健康登山のススメ）、あかぎ林間学校などを開催。恒例のぐんま山フェスタ、ぐんま県境稜線トレイル安全等調査などを実施したことが報告された。日本山岳会関連では、全国支部懇談会（関西支部主催）、関東四支部懇談会（茨城支部主催）へ参加したほか、支部独自活動として



7議案が承認された2026年度通常総会

国立赤城青少年交流の家における学校登山への協力、前橋市上川湖公民館の自主学習グループへの座学や実地登山指導などが示され、こうした地道な地域貢献活動を継続していくことが確認された。2025年度の会員による山行件数は、登山届が190件、登山人数は延べ481人だった。会計報告では収入・支出775,210円の決算案が承認された。役員人事は26年度は改選期にあたらないため根井支部長以下、全役員が継続して支部活動の運営を担う。

26年度事業計画では、山行、自然保護、広報、総務の各委員長から計画案が示された。山行委員会では恒例の上高地集中（8月）、尾瀬合宿（10月）などをはじめとする月例登山、自然保護委員会からは自然観察会（日光）、カヌー講習会などの予定が報告された。

8月にはあかぎ林間学校、11月には関東四支部懇談会を群馬支部主催で開催する。四支部懇ではヤマテンの猪熊隆之さん（日本山岳会会員）を招いて座学と山の天気ライブ授業を予定しており、多くの会員や登山愛好家の参加を呼び掛けている。

総会への出席者は会場が19人、委任状が31人。会員総数（75人）の過半数を超え、規定に基づき総会は有効に成立した。総会後は懇親会が開かれ、13人が参加し、和気あいあいとした歓談が夜が更けるまで続いた。

あいさつする根井支部長



茨城支部主催で 関東四支部合同懇談会

1月24、25日の2日間にわたり茨城、千葉、栃木、群馬の東・北関東の4支部による、毎年恒例の合同懇談会が茨城支部主催で開かれた。会場は久慈川に沿う大子町の大子温泉のホテル。山行は最近有名になってきた生瀬富士へ。そして観光は袋田の滝とおやき学校でのおやきづくり体験を楽しんだ。

1 日目、お昼過ぎに各支部のメンバーがマイカーや水郡線で続々と集まってきた。開会のあいさつに続いて、各支部の活動報告などのあと、インドヒマラヤのカンヤツェⅡ峰の登頂報告と常陸国ロングトレイル (<https://kenpokult.com/>) について、茨城支部会員による講演が行われ、熱心に耳を傾けた。

久しぶりの仲間との再会に杯も進む。宴会終盤にはガマの油売りも飛び出し、盛り上がった。

2日目は生
瀬富士への登
山組と、袋田
の滝の見学組
に分かれ、そ
れぞれ奥久慈
の素晴らしい
大自然を堪能
した。



岩稜歩きも

登山組は常陸国ロングトレイルの一部を楽しむコース。標高406mと低山ながらスリリングな岩稜歩きを楽しめる生瀬富士。高度感もあり「茨城のジャ



ほぼ氷結した袋田の滝

「シンドルム」は評判通りの楽しいルートだった。結氷した名瀑袋田の滝を見下ろす景色も最高だった。

袋田の滝組は
目前に氷瀑を仰
ぎ、その後は閉
校になった小学
校の校舎を再利
用したおやき学



参加者一同で記念撮影

校でおやき作り体験も楽しんだ。

次回は今年11月21、22日の土日、群馬支部が主催し、山の天気ライブ授業を兼ねて高崎市内と榛名山で行う予定。
(田中 規王・根井 康雄)

(田中 規王・根井 康雄)

玉原スノーシューはフカフカの新雪

沼田市の玉原高原で3月8日、公益事業の一つとして「冬の玉原自然観察会」を行った。スノーシューで歩きながら自然観察するのが目的で、日本山岳会群馬支部のホームページや上毛新聞、エフエム群馬などで参加者を募ったところ、県内外から12人の参加申し込みがあった。

午前8時半から受付を開始。この時点の天候は雪で、開始時間の9時になってもやむ気配はなかった。ホワイトアウト状態だった昨年のイベントが脳裏をよぎる。そんな悪天候の中、申し込みのあった12人と群馬支部のメンバー10人全員が集合場所のたんばらスキーパークにそろった。今回も山行委員会と



新雪を踏んで

自然保護委員会の共催。山行委員会の田中委員長を先頭に、ブナ平を目指して歩いた。風雪で顔が痛い。

途中、2カ所の沢もなんとかクリア。根井支部長の地図読み講座も交えてお昼前にはブナ平に到着した。ここで昼食。この時点で予報通り雪もほとんどやんで薄日が差してきた。30分の楽しいランチタイムもあっという間に過ぎて、帰りは来たルートに戻ることに。初めてスノーシューをはいたという初心者もいることから、湿原に向かわずに予定を変更した。

午後2時前、スタート地点のたんばらスキーパーク・センターハウス脇に到着、全員けがもなく、無事に下山できた。

この時期にフカフカの新雪の上を歩けるとは思っていなかったのも、そういう意味ではラッキーな1日となった。反省点は、ブナ平からの帰り道、後方を歩いてしまったこと。ブナ林の中に動物の足跡があったが、閉会時に確認したが、気づいた参加者は1人だけだった。足跡が直線的だったので、前足でつけた足跡に後ろ足が入るキツネだと思われるという話をして結びのあいさつとした。最後に参加者から感想を聞いたところ「一人ではなかなか来ることができないが、みなさんとご一緒できて楽しく行って来ることができた」「楽しかった」などと笑顔でこたえてくれたのが印象的だった。

(自然保護委員長 木暮 幸弘)

新緑の奥日光で観察会

日本山岳会群馬支部は、公益事業の「新緑の奥日光自然観察会」を5月30日に実施した。男体山の噴火によって形成された戦場ヶ原を中心に自然観察しながらおよそ5時間のコースをのんびり歩こうという企画。昨年は雨でやむなく中止としたが、今年は風が少しあるものの爽やかな晴れの最高のコンディションとなった。

参加者募集は支部のホームページのほか、上毛新聞「ぱれっと」とエフエム群馬に協力してもらったが思うように集まらず、昨年申し込みのあった方にメールでお知らせして、なんとか8人の参加者が集まった。

スタッフ5人と合わせ計13人のメンバーは、日光湯元温泉から9:20発のバスで出発地点の赤沼まで



奥日光の名山を望むハイキングコース



初夏の花咲く戦場ヶ原を歩く

移動。トイレを済ませた後、戦場ヶ原→湯滝→湯ノ湖を巡り、湯元ビジターセンター前で解散した。昼食は湯滝でトイレ休憩を兼ねてとった。コースはほとんど平坦で、唯一きついの湯滝から湯ノ湖までの15分ほどの登りだが、リタイヤする人は1人もなく、楽しいトレッキングとなった。

咲いていた花は、湯川沿いにズミ、ミヤマウグイスカグラ、オオヤマフスマ、セントウソウ。林内はズダヤクシュ、クリンソウ。湯ノ湖では、ツツジの仲間でベニサラサドウダン、トウゴクミツバツツジ、レンゲツツジ。オオカメノキもピークを過ぎたが、なんとか見ることができた。新緑の森をエゾハルゼミの蝉時雨が心地よく響き渡っていた。

なお、クマ情報は前日の下見の際、ビジターセンターで確認。西ノ湖および千手ヶ浜方面で目撃情報があるものの、今回のコース上は問題ないと判断した。念のためクマスプレーは携帯した。

(自然保護委員長 木暮 幸弘)

高崎観音山「健康登山塾」 血圧・心拍数集計結果報告

「健康登山塾」塾長 齋藤 繁

3月7日土曜日の屋外企画にご参加いただき大変ありがとうございました。当日測定していただいた血圧、心拍数を集計した結果をご報告させていただきます。一般的に知られているとおり、運動し始めの登り直後の測定値が高くなっています。その後、上がり下がりがありますが、終了時には落ち着

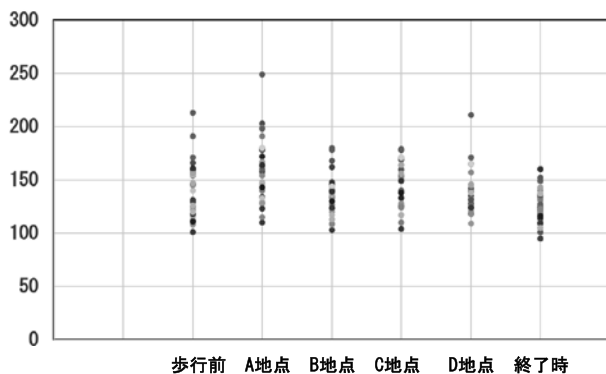
いています。ゆっくり移動した班で一番変動が少ないというわけではなく、個人毎の体力、当日の体調などによる差異と考えられます。収縮期血圧（上の血圧）と心拍数を掛け合わせたRPP（rate pressure products）が22000を超えると心臓は苦しくなりやすいと言われていますから、今回、そのような値が出た場合は、登りのペースを一段落とすことを心がけると良いでしょう。ぜひ今後も程よい血圧、心拍数の変動範囲で登山、坂道歩き運動を楽しんでいたただけたら幸いです。

参加者プロフィール

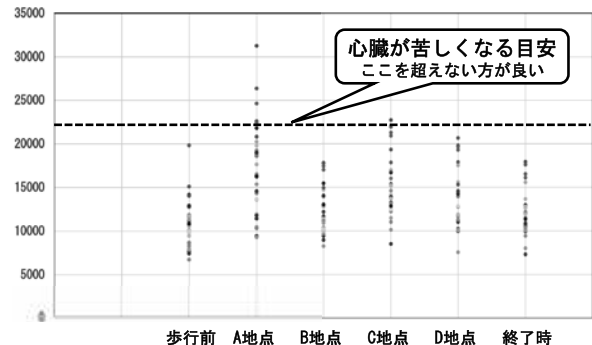
	年齢（才）	性別（男性／女性）	身長（cm）	体重（kg）	BMI	歩行時間（分）
全体	66±8（49-80）	8/24	161±8（148-180）	57±9（42-75）	22±3（16-28）	135±40（90-180）
到着I班	66±8（49-75）	3/7	162±5（157-170）	54±7（42-70）	21±3（16-25）	90
到着II班	61±8（49-72）	2/7	162±8（155-179）	58±9（49-72）	22±3（19-27）	120
到着III班	71±6（60-80）	3/10	160±9（148-180）	59±11（42-75）	23±2（19-28）	180

平均±標準偏差（最小-最大）

収縮期血圧（上の血圧） mmHg

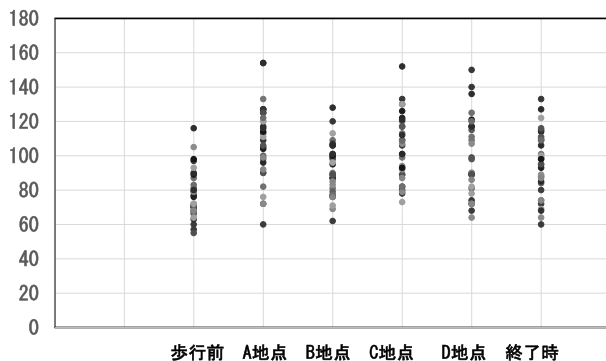


Rate Pressure Products (RPP: 収縮期血圧 X 心拍数)



A地点で6人、C地点で1人がRPP22000越え

心拍数（回／分）



〈当日の歩行ルートMAP〉

2026年3月7日土曜日

午前9時00分から受付

観音山公園エントランス広場集合（駐車は1段上の第2駐車場へ）

午前9時30分 エントランス広場から歩行開始



高崎観音山公園から染料植物園経由白衣観音周回
Aコース：周回距離 3.3 km、累積標高差 150m
Bコース：周回距離 5.0 km、累積標高差 230m（野鳥の森周回付き）
「坂道歩行のスピードと心拍数・血圧の関係を把握する」

全体				
測定地点	収縮期血圧 (mmHg)	拡張期血圧 (mmHg)	心拍数 (回/分)	RPP
歩行前	142 ± 25 (101-213)	88 ± 13 (67-123)	77 ± 14 (55-116)	10877 ± 2703 (6710-19836)
A地点	160 ± 30 (110-249)	96 ± 16 (64-136)	108 ± 22 (60-154)	17384 ± 5191 (9288-31262)
B地点	136 ± 18 (103-180)	85 ± 10 (64-112)	92 ± 15 (62-128)	12537 ± 2812 (8280-17820)
C地点	145 ± 21 (104-179)	88 ± 12 (62-123)	104 ± 19 (73-152)	15102 ± 3406 (8528-22743)
D地点	138 ± 21 (109-211)	88 ± 14 (60-117)	99 ± 23 (64-150)	13498 ± 3461 (7552-20678)
歩行後	127 ± 16 (95-161)	85 ± 13 (55-125)	95 ± 19 (60-133)	12034 ± 2518 (7320-17955)

平均 ± 標準偏差 (最小-最大)

到着I班				
測定地点	収縮期血圧 (mmHg)	拡張期血圧 (mmHg)	心拍数 (回/分)	RPP
歩行前	148 ± 14 (129-166)	89 ± 9 (76-99)	72 ± 10 (57-89)	10594 ± 1727 (7740-12789)
A地点	176 ± 20 (140-203)	102 ± 14 (76-122)	123 ± 29 (60-154)	19795 ± 5675 (9480-31262)
B地点	140 ± 11 (123-162)	88 ± 13 (64-112)	94 ± 17 (62-120)	13040 ± 2563 (10044-17760)
C地点	150 ± 23 (110-178)	88 ± 10 (66-102)	110 ± 20 (78-133)	16410 ± 3466 (12240-22743)
D地点	132 ± 13 (118-165)	81 ± 13 (60-100)	112 ± 25 (68-150)	14577 ± 2730 (11036-19800)
歩行後	121 ± 13 (95-135)	77 ± 11 (55-95)	99 ± 22 (60-133)	11905 ± 2805 (7320-17955)

平均 ± 標準偏差 (最小-最大)

到着II班				
測定地点	収縮期血圧 (mmHg)	拡張期血圧 (mmHg)	心拍数 (回/分)	RPP
歩行前	121 ± 15 (101-146)	84 ± 16 (70-123)	76 ± 16 (55-105)	9263 ± 2390 (6710-14162)
A地点	134 ± 16 (110-163)	87 ± 8 (74-99)	100 ± 17 (72-125)	13391 ± 3196 (9288-19250)
B地点	125 ± 14 (103-141)	84 ± 10 (69-100)	84 ± 11 (69-101)	10427 ± 1277 (8280-12180)
C地点	131 ± 16 (104-154)	81 ± 11 (62-95)	95 ± 13 (79-117)	12484 ± 2061 (8528-14625)
D地点	126 ± 10 (109-140)	88 ± 15 (75-114)	83 ± 14 (64-107)	10386 ± 1278 (7552-1180)
歩行後	124 ± 16 (105-142)	86 ± 8 (72-93)	86 ± 11 (64-98)	10569 ± 1350 (8000-12638)

平均 ± 標準偏差 (最小-最大)

到着III班				
測定地点	収縮期血圧 (mmHg)	拡張期血圧 (mmHg)	心拍数 (回/分)	RPP
歩行前	151 ± 30 (110-213)	90 ± 13 (67-113)	82 ± 15 (64-116)	12212 ± 2980 (8690-19836)
A地点	166 ± 32 (155-249)	97 ± 19 (64-136)	110 ± 19 (76-154)	18295 ± 4578 (10350-26394)
B地点	140 ± 23 (109-180)	83 ± 8 (65-92)	97 ± 15 (71-128)	13612 ± 3100 (9701-17820)
C地点	151 ± 18 (117-179)	92 ± 14 (69-123)	106 ± 21 (73-152)	15909 ± 3293 (11036-21280)
D地点	154 ± 24 (131-211)	93 ± 11 (80-117)	99 ± 21 (72-136)	15218 ± 3754 (11304-20678)
歩行後	135 ± 19 (101-161)	91 ± 14 (73-125)	99 ± 19 (68-127)	13147 ± 2509 (10360-17632)

平均 ± 標準偏差 (最小-最大)



登り始めの急な階段



心拍数、血圧を測定

心拍数の最大値の目安は「220 - 年齢」ですが、日頃から鍛えている人は暦上の年齢よりも体の年齢が若く、この目安よりも多い心拍数に耐えられます。最大心拍数の60-70%ぐらいが程よい体への負荷と言われています。例えば、年齢60才の場合は、最大心拍数の目安が220 - 60 = 160になるので、この60-70%にあたる心拍数96-112回/分ぐらいになる運動が楽しみながら取り組める持久系の負荷です。このレベルの運動でもすぐに苦しくなる場合は一度心臓の健診を受けておくとい良いでしょう。

(2026年3月12日)

山 行 報 告

いい山・旅気分

上信電鉄で行く富岡アルプス・神成山

3月の支部山行ソフトハイクは、富岡アルプス・神成山。今回は上信電鉄を利用し、南蛇井駅から神農原駅へ移動して登山をスタート。初めて乗る上信電鉄はどこか懐かしい雰囲気があり、降車時に車内で現金払いをするのも新鮮で、旅気分を味わうことができた。

山行は3班に分かれ、それぞれのペースでゆったりとした里山歩き。神成山は急登が少なく、ほどよいアップダウンが続く歩きやすいコース。穏やかな陽気の中、新緑前の明るい山道を参加者同士で会話を楽しみながら歩き、自然の中で心地よい時間を過ごした。今回楽しみにしていたオキナグサにも出会うことができ、可憐な姿に春の訪れを感じた。展望スポットからの景色も良く、のんびりとした雰囲気の中で楽しい一日となった。

近年人気の「ご当地アルプス」は全国に70以上もあり、これを制覇するのも面白そうだ。

(星野 弘美)



オキナグサ
絶滅危惧種・有毒

上信で旅気分！



積雪期の西黒尾根に挑戦

3月22日、念願だった谷川岳・西黒尾根ルートに登った。西黒尾根はグリーンシーズンも未経験であり、初挑戦が積雪期かつピストンということで躊躇もあったが、せっかく巡ってきた機会と思い参加を決めた。

谷川岳ロープウェイ駅を出てすぐ、まさに西黒尾根の取り付けからスタート。最初からアイゼンとピッケルを使用しての登高となった。樹林帯を抜けると視界が一気に開け、雲一つない青空と無風の穏やかな天候が迎えてくれた。青と白の世界となった尾

根筋や周囲の山々の景観は素晴らしく、何度も足を止めてシャッターを切った（撮影は半ば口実で実際は終わりの見えない急登に息を整えるため）。

ようやく見慣れた肩の小屋が見え、もうひと踏ん張りして登頂。山頂から歩いてきた尾根を振り返り、憧れていたルートを自らの足で登り切れた達成感に包まれた。昼過ぎからは気温上昇で雪が緩み始めていたが、最後まで気を抜かず無事下山。先輩方の的確かつ手厚いアテンドのおかげで、大変充実した山行となった。次はぜひ夏道で登ってみたい。

(白石 直子)



トマの耳にて

白毛門から上越国境を目指して

ゴールデンウィーク山行として、昨年の平ヶ岳山行に引き続き、白毛門から巻機山へ続く県境稜線を目指した。この山域は一般ルートがなく、残雪期でなければ深いやぶ漕ぎを強いられる難ルートである。

今回はテント泊装備と数日分の食料を背負っての行動となり、ザックはかなりの重量となった。それでも、谷川岳東面の岩



白毛門から笠ヶ岳間の様子

壁や奥利根の山並み、残雪と新緑が織り成す景観は素晴らしく、疲れを忘れさせてくれた。

しかし今年は尾根上の積雪が著しく少なく、例年なら雪上を快適に進める区間でも藪が露出し、雪と地面が入り混じる不安定な状況に難儀した。さらに天候悪化も予想されたため、今回はジャンクションピークから先へは進まず撤退を判断した。

それでも、奥利根の山々を一望する場所での幕営は格別であり、静かな山中で過ごす贅沢な時間を味わうことができた。地球温暖化の影響を改めて実感する山行となった。

(原澤 修)

第16回登山教室指導者養成 講習会の参加報告書

3月14日から2日間、小諸市で開催された本講習会に参加しました。1日目、引率中に体調不良者が出た想定ของกลุ่มワークでは、危機対応における意思決定の難しさを学びました。私は膨大な状況分岐の想定に時間を取られましたが、現場経験に裏打ちされた先輩方の迷いのない状況判断を目の当たりにし、当会に蓄積された実践知の奥深さを実感しました。

2日目は黒斑山周辺での実技講習です。雪上でのロープワークやセルフビレイを学びましたが、

理論として理解した技術も実際の雪上では思うように機能せず、ツボ足歩行がアイゼンワークの確固たる基礎となることを身をもって体感しました。

お客様を案内する機会は少なくとも、仲間との山行において「もし今、体調不良者が出たら」と常に予測する視点を得られました。他支部の仲間と広く交流しながら、自立した登山者になるための体系的な学びが得られる、日本山岳会の良さを再認識した有意義な2日間でした。(中村 拓巳)



雪上歩行におけるセルフビレイとロープ固定技術

群馬県境踏査プロジェクトが始動

みんなで県境を歩きつくそう

群馬県山岳・スポーツクライミング連盟(岳連)、群馬県勤労者山岳連盟(労山)とともに、日本山岳会群馬支部が加盟し、この3団体で構成する群馬県山岳団体連絡協議会では、今年度から群馬県が隣接する各県との県境を踏査するプロジェクトをスタートさせた。プロジェクトの進行にあたる実行委員会も作られた。

群馬県境の総延長は600km以上、あまり目立たないが手ごわい藪と二つの日本百名山を超える両毛県境から尾瀬、奥利根を経て谷川連峰へ続く道のない2000m級の稜線、さらに朝日岳北のジャンクションピークから四阿山までの群馬県境稜線トレイル、浅間山西部の火山列から藪岩の西上州、そして利根川から渡良瀬川沿いのサイクリングロードへと変化に富むルートが続く。

かつて岳連が県境縦走を行い、労山の会員が仲間



浅間山から四阿山へと続く県境稜線(浅間隠山から)

のサポートを受けながら個人で縦走しているが、この県境稜線完全縦走を核に、平野部を含めた県境完全踏査を3団体所属の山岳会員で力を合わせ、分担しあっ

て歩き通そうという冒険的な計画だ。

この5月31日には3団体合同のキックオフ山行が浅間西の県境稜線で行われ、角間山から車坂峠までの県境がつながった。その前には野反湖から三国峠までの上信越国境最深部が岳連の2人によって歩かれている。また群馬支部でも連休に白毛門から巻機山までの縦走を目指したが、残雪状態の悪さもあって断念している。

今後3年間での達成を目標に協議会ではこのプロジェクトに注力する。群馬支部でも支部山行、個人山行とも、できる限り県境踏査に注力し、全線踏査の達成を目指したい。支部会員もたとえ数キロでも良いので、県境稜線を歩く山行を企画実行して欲しい。具体的には志賀高原や万座周辺、長野原町南の国境平を経て鼻曲山を登り、山頂から南下し碓氷峠、さらに南下して西上州に続くルートなどがある。また鳥居峠から四阿山を経て毛無峠までの縦走は8月末に3団体合同で計画されている。平野部ではサイクリングロードをロードバイクで走破することも考えている。なお、県境稜線トレイルのうち白毛門から三坂峠までは上記山岳3団体が県からの委託を受けた安全調査として分担して歩く。

個人山行で県境稜線を含むルートを歩く場合は、協議会事務局長でもある田中山行委員長に相談し、このプロジェクトに協力してほしい。また3団体合同で県境を歩く山行が企画された際は、ぜひ積極的に参加して欲しい。

(支部長・協議会副会長 根井 康雄)

山岳組織に思う事

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
会長 町田 幸男

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会（JMSCA）の会長に就任して1年が経ちました。また、昨年11月からは日本山岳会の会員として末席に加えていただきました。



簡単に自己紹介をさせていただきます。私は太田市出身で山を始めて51年が経ちました。始まりは高校山岳部で、その後大学山岳部、同時に社会人山岳会へ入会後、群馬県山岳連盟での活動を主として取り組んでまいりました。選手、監督として国民体育大会に参加、国立登山研修所の講師をはじめ登山者の指導、育成にも努めてまいりました。遭難対策に関しては37年間取り組み、群馬岳連救助隊長も10年間務めました。エンジニアとして勤めたSUBARUを昨年退職し、今はJMSCAの会長として職務に専念しております。

昨年は1905年に日本山岳会（JAC）が発足して120年の年でした。また1955年に日山協の前身である全日本山岳連盟が36の都道府県岳連により結成さ

れて70年目の年でもありました。

日頃考えさせられるのは連盟や協会など組織の在り方です。元来山岳会やクラブは山好きが集まり、共に山登りを楽しむための集団でした。しかし、小さな会では成し得ない登山、例えばヒマラヤ遠征など、あるいは遭難事故が発生した場合の共助の集団として協会が組織されました。現在ではJACやJMSCAにはその活動に公益性が求められています。

JMSCAは47都道府県の組織が加盟する団体であり、スポーツクライミングやSKIMO（山岳スキー）でオリンピックを目指すスポーツ競技団体でもあります。

日本山岳会初代会長である小島烏水氏は以下の言葉を残しています。『山岳会の仕事は創作に有る。山岳に関する新しい行為を成就することが即ち創作に値するのである』

近年ではSNSによる登山情報の拡散など登山環境も多様化し大きく変化しております。そのような現在、山岳団体に求められるものは何なのか、改めて考えさせられる問いかけかと思います。登山人口は今や500万人とも言われ、対して山岳4団体の会員数は全て合わせてもわずか7万人程度です。組織でしか成し得ない大志を実現する事、求めるのではなく与えることが組織たる私たちの使命と考えます。

支部長のつぶやき④

思い込みと思い違い

群馬県で発行している伝統ある「みやま文庫」からの依頼で、会員有志の支援もいただきながら県内の山に関する本の執筆を進めている。同時に二つの企画を進行するという無謀なオファーを受け入れてしまったのだが、一つは平野紀子会員のご協力をいただき、平野さんを中心に入沢祐明さん（スケさん）、そして故平野長靖さんの妹の山本秀子さんらからお話をお聞きし、長蔵小屋と尾瀬の歴史をまとめている。すでに戸倉で3度、尾瀬沼畔の長蔵小屋でも取材している。とても楽しい取材ではあるのだが、取材すればするほど自らの知識の狭さを痛感してしまう。

もう一つは群馬の登山史。江戸時代から直近まで、八木原罔明会員に全面的に加わってもらって群馬の登山史を正確かつ明瞭に記録することを企てている。妙義や榛名、赤城などでの江戸期の登

山を専門家への取材から紐解くことから始め、調査と執筆を進めていく中でぶち当たった壁が、情けないことに自分自身の浅薄な知識と思い込みによる誤った歴史の知識だった。古道調査でもそうだったが、調べれば調べるほど、自身の甘さが露呈し、資料を読みこめば読みこむほど歴史上の真実の深みをのぞき込むことになる。山に限らず、歴史というのは難しい。定説とされていることが実は誤りであったり、自分自身の思い込みが単なる思い違いであったりということは往々にしてある。白馬岳の山名の由来が代かき馬という説が実は間違いだという話は近年大方の認知を得てきたが、このようなケースは実はほかにも多いのだ。

この歳になって、思い込みを捨てて、正しく学ぶことの大切さを身に沁みて感じながら、山岳書の1ページ1ページをめくり、一字一句を山の一步一步のように確かめながら書き進めている。

（根井 康雄）

NEWS

[速報・短信]

信濃・群馬両支部が浅間隠山で交流山行

5月16日、信濃支部とのはじめての交流山行が二度上峠から浅間隠山往復のコースで行われ、信濃・群馬両支部の14人が好天に恵まれた初夏の山を満喫



はじめての信濃支部との交流登山

した。隣県同士でありながら、今までほとんど交流のなかった両支部だったが、この日は絶好の交流登山日和に恵まれ、野鳥さえずる爽やかな新緑の森を和気あいあいと登り、山頂ではティーパーティーで大盛り上がり。

下山後は北軽井沢でのカフェタイムで話も弾む。皆、飛び切りの笑顔で再会を誓い合った。

関東地区山岳連盟総会

関東地区山岳連盟総会が1月31日(土)、高崎市のホテルサンコー高崎で開かれた。山梨県を含めた関東の山岳連盟(協会)が年に一度、一堂に集い、

登山振興、安全登山、国スポなどについて協議する場で、会場は各岳連が持ち回りで開催し、今年は群馬県山岳・スポーツクライミング連盟が主管した。総会には群馬支部から根井支部長が岳連常任理事(広報委員長)として参加した。



健康登山のススメ

群馬支部が誕生してはじめての公益事業が「健康登山塾」だった。ここ数年、上毛新聞社の紙上企画やイベントとして行われてきたが、この3月、「健康登山のススメ」として、



座学1回、実地山行1回で復活した。上毛新聞社との共催で、日本山岳会医療委員会からの応援も得て行われた(関連記事4面)。

群馬大学附属病院長の齋藤繁副支部長による、座学(3月2日)と実地登山(7日)には定員の20人が参加し、実地登山では原田智紀医療委員長・本部理事によるテーピング講習会(=写真)も行われた。

思い出の山

マナスル

～人生の贈り物～

武田 裕光

一本の映画が私をマナスルに導いてくれました。その後、山岳画家になったのもマナスルが関わっています。以下は経緯です。

マナスルとの出会いは小2の時に観たマナスル初登頂の記録映画です。子供心ながら大変感動いたしました。大学で山岳部に入り、北アルプスの夏山縦走、剣や穂高でのロッククライミング、冬山、そして厳冬期富士山頂での単独ビバーク訓練などを楽しみました。人生で一番輝いた時です。その後は山からは遠ざかりました。

60歳を過ぎて時間に余裕ができ、北アルプス主脈全山縦走を思いつき、成し遂げました。そしてマナスルの想いに火がつき、まず経験を積むためヒマラヤのロブチェに登頂し、次にアコンカグア

を目指しましたが、6400m地点で敗退しました。それでも同年、マナスルに挑戦し、69歳で夢を果たしました。以後、国内外の高山はやめて、山岳画に力を注ぐことになります。



油彩「マナスル氷河とピナクル」

絵は前橋の絵画教室で習っています。マナスルのためのトレーニングでヒマラヤに行った時の絵を「山の絵」に投稿したところ、憧れの日本山岳画協会から入会の打診があり78歳で入会を許可されました。現在は山岳画家として活動し、これが私の生き甲斐となりました。マナスルのお陰です！

* 日本山岳画協会は日本山岳会を母体として昭和11年に設立され、現在は東京のギャラリーや安曇野の美術館で展覧会を開催しています。

事務局だより

【主な活動・事業・イベント】……………
(2026年)

- 群馬県山岳団体連絡協議会稜線踏査第1回会合(2/14 前橋・ホテルサンカント)
- 国立赤城青少年交流の家研修指導員研修会(2/15 国立赤城青少年交流の家)
- 群馬支部役員会(2/17 Zoom)
- 群馬支部安全研修委員会(2/18 Zoom)
- 群馬県岳連理事会(2/18 前橋・総合福祉会館)
- あかぎ林間学校ミーティング(2/26 Zoom)
- 健康登山下見・打ち合わせ(2/26 観音山公園)
- 健康登山塾座学(3/2 JOMOプラザ)
- 支部事業委員会(3/2 Zoom)
- 自然保護委員会(3/3 Zoom)
- 健康登山塾実地山行(3/7 観音山)
- 冬の自然観察・スノーシューツアー(3/8 玉原高原)
- 群馬県岳連理事会(3/11 前橋・総合福祉会館)
- 日本山岳会指導者養成講習会(3/14～16 小諸・安藤百福センターほか)
- 群馬県山岳団体協議会県境踏査会議(3/17 前橋・元気21)
- あかぎ会議(3/17 前橋・赤城山)
- 群馬支部例会(3/18 前橋・元気21)
- 群馬支部山行委員会(3/19 Zoom)
- 八木原図明会員講演会(3/22 みなかみ町・カルチャーセンター)
- 支部広報委員会支部報チーム(3/23 前橋・元気21)
- 日本山岳会山岳祭会議(3/24 Zoom)
- 日本山岳会支部連絡会議(3/25 Zoom)
- あかぎ林間学校zoomミーティング(3/27 Zoom)
- 群馬支部役員会(3/30 Zoom)
- 雪山フェスタ(4/4・5 谷川岳ヨッホ)
- 日本山岳会支部事業委員会(4/6 Zoom)
- 群馬県岳連理事会(4/8 前橋・総合福祉会館)
- 広報委員会インターネットチーム(4/9 Zoom)
- 群馬県山岳団体協議会県境踏査会議(4/17 前橋・元気21)
- 赤城キャンプフィールドオープン前見学会(4/23 前橋・赤城山)
- あかぎ林間学校zoomミーティング(4/23 Zoom)
- 県境稜線踏査山行(5/2～4 白毛門～巻機山*ジャンクションピークまで)
- 「日本山岳会の歩みと近代登山史」出版を祝う会(5/11 東京・主婦会館プラザエフ)
- 群馬県岳連理事会(5/13 前橋・総合福祉会館)
- 谷川岳プロジェクト実行委員会(5/13 みなかみ町・水上公民館)
- 信濃支部との交流山行(5/16 浅間隠山 *14人が参加)
- 日本山岳会支部事業委員会(5/18 Zoom)
- 日本山岳会山岳祭会議(5/19 Zoom)

- 群馬支部通常総会・懇親会(5/20 前橋・元気21ほか)
- 日本山岳会支部連絡会議(5/27 Zoom)
- 自然観察会(5/30 日光・戦場ヶ原)
- 県境稜線踏査山行(5/31・6/1 湯ノ丸山～池の平・車坂峠～池の平)
- 群馬県岳連総会(6/6 前橋・総合福祉会館)
- 群馬県岳連理事会(6/10 前橋・総合福祉会館)
- 群馬県山岳団体協議会総会・懇親会(6/12 前橋・元気21ほか)
- 登山道整備ワーキンググループ(6/15 リモート)
- 群馬県山岳団体協議会県境踏査会議(6/16 前橋・元気21)
- 支部役員会(6/17 Zoom)
- 日本山岳会総会(6/20 東京・主婦会館プラザエフ)
- あかぎ会議(6/25 前橋市・赤城山)
- 日本山岳会支部事業委員会(6/29 Zoom)
- あかぎ林間学校プレ登山(7/4 赤城・長七郎山)
- 谷川岳山開き(7/5 谷川岳インフォメーションセンター)
- 東北・北海道地区集会(7/10～12 秋田・大湯村)

【今後の主な予定】……………

- 林間学校スタッフカヌー講習会(7/18 みなかみ町・赤谷)
- 白山集中(7/25～27 白山・室堂)
- 高頭祭(7/25・26 新潟・弥彦山)
- あかぎ林間学校(8/8～10 赤城山)
- 上高地集中合宿(8/22・23 上高地・山岳研究所)
- 上州武尊山スカイビュートレイル(9/12・13 上州武尊山周辺)
- 日本山岳会支部連絡会議(9/16 Zoom)
- 全国支部懇(9/27～29 富山・立山)
- 尾瀬合宿(10/3～5 尾瀬・長蔵小屋)
- 上信国境古道調査(10/10・11 十石峠・余地峠)
- ぐんま山フェスタ(10/17・18 高崎・ビエント高崎)
- 木暮祭(10/25・26 山梨・金山平)
- 日本山岳会自然保護全国集会(10/31～11/1 静岡)
- 日本山岳会指導者養成講習会(10/31～11/2 小諸・安藤百福センターほか)
- 木暮理太郎翁を偲ぶ会(11/3・4 太田・生誕地の碑)
- 関東四支部懇・山の天気ライブ授業(11/21・22 高崎・ホテルサンコーおよび榛名山)
- 日本山岳会晩餐会(12/5・6 東京・京王プラザホテル)

日本山岳会群馬支部報 第28号 2026年7月15日

発行：公益社団法人 日本山岳会群馬支部

〒371-0051 前橋市上細井町1200-7(根井方)

<https://shibu.jac1.or.jp/gunma/>

編集者：広報委員会支部報担当

発行者：根井 康雄 印刷：上武印刷株式会社